

第1回 南砺市立病院運営改革委員会

日 時 平成30年8月30日（木）16：00～

場 所 福野庁舎 201会議室

出席者 委 員 7名 中山繁實、長瀬啓介、垣内孝子、西村静代、武部範代、大塚千代、
山口裕幸

市当局 15名 市 長 田中幹夫
副市長 工藤義明

(地域包括医療ケア部) 小森部長、叶山担当部長、中家次長

(南砺市民病院) 清水院長、片田事務局長、笠井総務課長、
岩腰医事課長

(公立南砺中央病院) 三浦院長、山崎事務局長、中谷総務課長、
小又医事課長

(医 療 課) 藤井課長、山田課長補佐

欠席者 委 員 3名 松本久介、杉山敏郎、矢島眞

1 開 会

2 開会の挨拶 中山委員長

3 協議事項

(1) 新南砺市立病院改革プラン平成29年度取組み結果について

資料1-1、1-2、1-3に基づき事務局より説明

(2) 平成30年度の取組みについて

資料2に基づき事務局より説明

【質 疑】

委 員：資料1-1で病院事業全体を記載した部分の2行目、末尾の部分、言葉が足りないせいだと思うのですが、職員の時間外未払いの未払い分の特別損失。職員が未払い金を作ったのかみたいにも思えるのですが、これは会計担当職員の勤務時間外未払いということでしょうか？

事務局：これは時間外手当です。

委 員：新聞で何度か報じられたような問題であるのか、単純に患者さんがお支払い

いただけなかつたのか、色々と未払い金もありますので、正確に記載いただけたらと思います。

委 員：資料1－2の表の中で計画値と実績値との間で乖離があるところを見てまいりますと、手術件数が計画で29年度700件、実績で655件であったという数値が出ております。全般としては、表には出てこないので計算をしたのですが、新規入院患者数で見てみると、平成28年度から平成29年度の間で5%増となっていますので、病院としてはかなり忙しくなっているのではないかと。その後、努力の結果が収支に出ているのではないかと思いますが、この計画よりもある程度の比率で少ないということが統計として出てきます。3ページの上から2行目のところに「手術件数は、眼科の手術件数が大幅に増加したが計画より45件減となった」と事実関係が書いてある訳です。この項目は各項目における分析と評価として、良いのか？悪いのか？改善すべきか？このままいくのか？ということが数値としては大きいにも関わらず、全く書かれていません。これについて、どうお考えなのか？それについてもここに記しておいた方が良いのではないのか？と思いましてお伺いしたい。

次に2ページ目中程の「経費削減・抑制対策」の「実績」4番の項目、商品採用率は約70%であった、というのは、文脈からすると共同購入の商品採用率ということでよろしいのでしょうか？

それからもう一つ上の使用率89.8%と書いてあります。これは金額ベースでしょうか、それとも品目ベースでしょうか？おそらくそれによって、ここに表現される数字は2種類表記されると思いますので、どちらになるかと思いまして。細かいところが多くて申し訳ございません。南砺中央病院の方については数字の方も見させていただきましたが、こちらの方も5%新規入院患者が増えていて、それが収支に反映されているものと思いますけれども、文章的にも内容的にも拝見したところ、質問するところはございません。

委員長：数点のご質問がございました。これについて事務局の方より具体的にお願いします。

事務局：手術件数に関しましては、市民病院は眼科の先生が結構若い先生で、手術の経験があまりない先生が来られて、徐々に増えている。最初は伸びなかつたというところがあり少し減ったが、途中から毎月、手術件数が伸びてきており、今は以前と同様に戻ってきています。これに関しては、将来的には解決しつつあります。29年度の後半ぐらいからは元に戻っていますので、最初の落ち込みがあったということです。

委 員：点数的に必ずしも計画のとおりであるかどうかということは、正直なところ最終的には構わないのではないかと私個人は思っておりますので、29年度の計画

が700件であったところ30年度が800件になっているんですね。ここで結構、乖離が生じてしまつて、病院の運営の実態と乖離した計画に今後なつてしまふのではないかと懸念をしているところで、そのような点で懸念は？

事務局：それは、ちょっと乖離がひどいと思います。

事務局：補足になりますが、患者の方は増えてきてますが、実を言いますと、30年度は市民病院の整形の手術が減ってきてますので、計画値よりも手術の件数が下がる可能性があるのではないかという予想であります。今のところ何とか計画値に回復はしてますが、30年度については整形の手術件数が落ち込んでいるのかなという状況ですので、29年度計画値100件プラスになるのかは非常に厳しい状況であるのかなと。

委員：やはり、一旦書いてしまった計画を何がなんでもそのまま、金科玉条のごとく数字を合わせるというのはナンセンスですし、実際、全体の収支の計画の上にあくまでも手術件数を持ってくるものですから、実態として、病院の運営とかけ離れているのであれば、そこは然るべく評価の所を設けるなりして修正を明確にしていただいて、なお全体の収支バランスにどう影響するのかを踏まえて、今年度以降の実施的な計画を立てられたらいかがかなと今のお話を伺って感じました。

事務局：なお、後発医薬品は収益ベースではなく、品目ベースです。

事務局：今ほどご指摘ありました3ページの「手術件数は、眼科の手術件数が大幅に増加したが計画より45件減となった」でありますが、大幅に増えたのであれば、普通は増えるはずなので、表現的にもおかしい。具体的にもう少し、減となつた要因も踏まえて修正させていただきます。

事務局：さきほどから色々と話が出てきていますが、計画値と実際の数値の差がここに出てくる訳ですが、スタートの眼科なりが途中から増えてきたのが現実にあって、そうするとどこかが減ったのではなくて、それだけの差なのかどうかということを明確に書いて、計画値との乖離がどこにあるのかを書くということですね？

委員：そうですね。分析だけではなく、それに対する評価、良いのか？悪いのか？修正するとすればどう修正するのかまで書かれると良い。

事務局：計画の変更についてどの段階で、これからいくつか計画値であるとか、國の方の制度のことがまだ先送りになつてている部分がありますので、この計画をどこかで変更するべきところが出てくる可能性がありますので、そのあたりは、どういう段階で数値も含めて、計画値も含めて計画の変更がもしかしたら必要になってくる時がありますので、その時は皆様方にお認めいただくことがあるかと思います。

委員：資料1－3の1ページ、経営指標に係る数値目標の中の療養病床利用率のこと

ろが29年度で廃止になって斜線になっています。でも、今年度の取組みについてというところではもう括弧書きになっていたりして、この説明については3のところありますか？

事務局：国の方の制度が改革プランを作っている段階と、これを公表した時にすでに6年間延長するという、ここには盛り込まれていないというところからスタートしているということが欠陥といえば欠陥で、どこかで変更しなければならないということがあったのですが、すでにこのプランについては議会の議決を頂いていたところでありますが、介護医療院の制度的に不明なところがありまして、そこが今そのまま残っているということが介護病床というところの数で表記されている。もう少し国の方の制度の明確な数値、もしくは方針が決まり次第、どこかで変更しなければならないと思っているところです。

委員：29年度で廃止というのもプランでこういう計上がなされているという意味で書いてあるのでしょうか？

事務局：はい。

委員：自己評価というのが、自己を取って対外的に出て行く文書になるということですから、その辺を整理してほしいのですが、あわせて市民病院の3ページ、経営の効率化というところで赤線が引いてある人件費の削減という表現をしてありますが、削減というのは給与費をカットしたり、そういう印象を与えるので、ここも表現を変えてもらった方が良いかと思います。

委員長：ほかの委員の皆様方、何かありますか？

委員：両病院とも入院患者数が増えたということで収益が増えたという話でしたが、それは今からも高齢者が増えるから入院患者が増えるのか、診療科が増えたから手術とか何かで通院する人が増えたのか、今後の見通しとして、まだまだ高齢者が増えたとしたら入院患者数が増えていくのか、そのあたりがどのようなものか？

委員：両病院とも入院も外来も同じ科の患者数が増えてきている。整形とか眼科とか。医療需用が変わってきているのではないかと思ってみたのですが、どうでしょうか？砺波総合に行っておられた方が戻って来ているとか？

事務局：南砺市民病院でも解析はしていますが、新しい患者がそんなに増えている訳ではない。高齢者が多く、内科がやっぱり多いのですが、ベッド稼働率の大半は内科なのですが、内科は高齢者が多くて良くなって帰られても何ヶ月したら再現率が高いですね。

委員：それが増えているのですね。

事務局：そうです。高齢者が多いとどうしてもこういうことが2～3年は続くのではないかと。そのあとは、多分減ってくるのではないかと。やっぱり2020年をピークに高齢者の数が減ってくることになれば、減ってくるのではないかと考えます。

えています。それに今から対応しなければならないと考えています。

事務局：南砺市の両病院の入院患者の8割は65歳以上というデータが出ております。

いわゆるお年寄りの方が非常に多く受診されるということで、65歳以上のお年寄りのピークはほぼ今、来ている。ただ、2025年には団塊の世代の方が75歳以上、後期高齢者となります。入院患者で多いのは後期高齢者の方々が非常に多いということで、その辺の分野については、75歳以上についてはまだ伸びてきている。2025年で75歳以上の方が25%の率となり、2030年には27%の率となっていますので、まだしばらく高い数が続くということになります。

事務局：全体として、どういった医療が良いかということは考えて行かなければならぬ。

事務局：ようはリターンが増えたということは、高齢者になると退院、入院の回数が多くなるので、絶対数が減っていけば、その回数も減っていくということなので。

委員：入院の機会に他の所も診てもらおうという人も増えてきますのね。

事務局：稼働率が病院の中でピークになると97～8%くらいになり、平均すると85～6%です。中央病院も5%上がったということは、中で一生懸命頑張っていただいているというところが、やっぱり大きいのだと思います。またニーズがあるから来られている。今まででは入ろうとしてもスタッフの数がいなくて入れなかつた場面もあったのですが、入れるようになったということが、病院の努力が少しづつ出てきている。

委員長：この議題については、まだまだご意見があるとは思いますが、ここで次の議題に進ませていただいて、後ほど総括的にご意見いただければと思います。

（3）南砺中央病院病床転換案について

資料3-1、3-2に基づき事務局より説明

【質 疑】

委員：まだはつきり出ていないという介護医療院についてですが、私の知っている情報では、転換を促進するための優遇措置というのがありますと、それが平成32年までに転換を行えば、例えば1人入院された場合には、1日930円くらいの加算を付けますよ、というような1年間限定の優遇措置でそれより遅れたら加算を受けられなくなります。6年間あるからといって、のんびりしていると加算が受けられない、優遇措置があるにも関わらず、それらを受けられない状況になる。また、改修でパーテーションをつけたり、レクリエーション室をつけたりということが書いてありましたが、こういうことを考えたときに改修費用についても一部補助があったと思います。それが受け

られるよう、なるべく市の持ち出しが少ないように、また以前お聞きしたときに一般病床の1日入院単価と療養病床の1日入院単価との違いを補てんするために1億3千万くらいの年間の補助が必要となっているということでしたので、遅れることによって、ずっと拠出していくことになることを思うと、やはり、例えば富山県でも1つ、ある施設では全て介護医療院にされました。なので、そのような所も参考にしながら、なるべく早く取り組んでいただきたいと、私のお願いであり、意見あります。

事務局：県内でその実績はどちらでしょうか？

委 員：流杉病院。介護ベッドは全て介護医療院にされました。

委員長：制度的なことも充分踏まえて取り組んでいただきたいということでござります。またスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。

委 員：29年度は大雪となり結構入院患者が多く、砺波総合の先生から南砺の病院がいっぱいなので救急車がどんどん砺波に回ってくるのは知っておられる？と言われて、今日のデータを見せていただいて大変だったのだなと思って、今年は先生方がご苦労していただいたのだなと思ったのですが、救急患者の数が市民病院は実績が計画よりも上回っていたのですが、南砺中央病院では少し下回っていたようですが、両病院で救急の相互乗り入れはないのでしょうか？割と南砺中央病院は、まだ救急の受け入れ余裕があったのではないかと見ていました。

事務局：救急の何でしょうか？

委 員：救急車の患者数が南砺中央病院では実績が計画よりも少なかったと書いてあったので、今年の冬は救急患者が南砺の方で受け入れられないので砺波総合の方にどんどん来てしまって、砺波総合が悲鳴を上げられていた。骨折しないように外を出歩かないようPRして欲しいとまで言われたのですけれども、私も情報を掴みきれておらず、どうしようかと言っているうちに大雪が終わってしまったのですが、病院相互の救急の相互乗り入れといいますか、この病院がいっぱいなら、あの病院へ行って下さいとか言うのがあるのでしょうか？ないのでしょうか？

事務局：主に整形外科ですよね？

委 員：整形外科だと思います。骨折とかで救急車で搬送されているので。

事務局：どこまで砺波総合まで行ったのか、それほど多くはないとは思います。多分、感情的な話になると客観性が欠けてくるので。今、市民病院で診られない患者は南砺中央病院に搬送しておりますので、出来るだけ南砺市でとは思っていますが、色々な状況で砺波総合に運ばれることもあるかもしれません。ただ、救急車の数は毎月ずっと把握しておりますので、そんなに砺波総合が増えているわけではありません。1台2台来たとしても、感情的になることもあります。

あるでしょう。それは充分気を付けているつもりで、この中で連携していきます。

事務局：救急の上位消防と病院の中でも打合せを前に行っており、出来るだけ中でという話もしておりますので。

委 員：資料3－1の下の再整備案、転換案に地域包括支援センターが構想となっていますが、入るということで間違いないでしょうか？

事務局：地域包括支援センターは構想となっておりまして、人的な組織建てが確保できておりませんが、将来的には訪問看護ステーションのサテライトと同様に地域包括支援センターのサテライトのようなものと同じ部屋に作っていきたいと考えております。今はスペースを確保するということです。

委 員：確保して32年度の本格稼働には入るのでしょうか？入らないのでしょうか？

事務局：32年度には入っておりません。人がどれだけ確保できるか、ケアマネジャーがどれだけ確保できるかにかかっておりまます。

委 員：今、地域包括支援センターは井波にありますが、市民の窓口が城端や福光の方が行かれるには、ちょっと遠いので。

事務局：そういう意味で井波と中央病院で拠点を作りたいという構想です。

委 員：是非、お願いします。

委 員：南砺市に2つ病院があって、安全安心の医療をやればやるほど赤字となるわけですが、それが改善されているということですが、私の向かいの家が2回、隣の家が2回、一昨年、直近で言うと計4回、全て中央病院2回と市民病院2回、出来るだけ直近に行くということになっておりますので、近くに病院があって救急に耐えられることが非常に私も地域の人も安心安全で守られていると思います。その中で体制を整えていくというのは非常に難しいことかもしませんが、このまま継続して欲しいと思います。私の母親が砺波に住んでいるのですが、実は具合が悪くなり救急で南砺市民に運んでもらいたいと伝えたところ、砺波が近いので砺波で下ろしますと言われました。その分野というのは、救急もそれを把握しながらやっているのだと思いますし、それは適宜、救急医療に対応していらっしゃると私も把握しています。このままよろしくお願いしたいと思います。

委員長：平成29年度の決算状況等についても先ほどご説明ありましたが、両病院長からそれぞれコメントをいただければと思います。

事務局：今お話があったように、ベッド稼働率が上がってきてていることが一番大きいことと、それに対応できる病院になった、職員の意識がこれだけではなく色々な意味で3～4年で変わってきています。まだまだ叱りを受けることも当然あるわけですが、3～4年前に行われていたこととは全く違う考え方で、以

前は84%になった段階で病院にベッドがないという話で大騒ぎしていた。私が入院させようとしたら、職員からはベッドがないと言っていた。そこから職員の意識を変えていかなければいけない。現在は、非常に積極的にベッドコントロールをし、全て受け入れようとやっています。もちろん100%ではないですが、意識が変わってきていることが一番大きいことかと思っています。もちろん、加算や色々な指導料を取ることもやっており、毎月、経営改善ということで全ての経営指標率を数人で同じものを見ながら検討しています。どこに問題があるのか分かっていますが、経営に問題があるところが診療に問題があるわけでは決してない場合もありますので、地域医療として大切なものは何かというものをきっちりと押さえながら、経営的にも何とか黒字でやっていけるように考えています。そういう意味では黒字が4千万から1億円になった方が良いとは考えておらず、我々がどういう医療を提供していくのかが非常に重要であり、そこを外れるとダメだという姿勢でやっています。ただ赤字はダメだと。赤字になると私たちがやりたい医療ができなくなりますよと、市に負担をかけるのは良くないということを言っていて、今は黒字で当たり前みたいな感じになっています。意識改革が一番収益に現れたと思っています。

事務局：昨年度も30年度も病院の状況に関しては、少ない人数でみんな良く頑張ってくれていると思っています。ベッドの稼働率に関しても、包括ケア病棟を入れたことで、今までにない運用をするということで多分、この数字になったのだと思っています。やはり人員が相対的に仕事に比べて少ないのが否めないので、今後、事故のないようにやっていきたいと思っています。今、一番、怖がっているのはそこあります。今年度も順調ではありますが、事故が起きないようにやっております。

委員長：議題につきましては、先ほどご指摘いただいた事項を踏まえて修正して、最終的に整理をしていただきたいと思います。

4 閉会の挨拶 田中市長

5 閉 会